

I 研究主題

児童・生徒自らが、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導能力の育成
～地域と連携し、生徒指導の機能を生かした実践を通して～

II 主題設定の理由

本郷地区の児童生徒は、明るく活発で、元気な児童生徒が多く、与えられた役割について真剣に取り組むが自主的に取り組めない児童生徒も見受けられる。基本的な生活習慣や規範意識が十分に身に付いていなかったり、人とのコミュニケーションがうまくとれなかったりして、良好な人間関係を築くことが苦手な児童生徒がいる現状もある。

本郷地区の小中3校（国富小・本郷小・本郷中）は、平成14・15年度の指定研究（小中連携教育・学力向上）をきっかけとし、これまで引き続き三校合同研修会を行ってきた。この2ヶ年の研究において、班別研修を数多く行い、小中合同の授業研究や基本的な学習習慣の共通実践、広報誌の発行など、今後、特に3校が連携しながら長期的に取り組んでいくべき活動や組織についての基盤づくりを行うことができた。指定研究以降の小中合同研修会では、情報交換やあいさつ運動、整理整頓の励行などの共通実践事項の検討を行ってきた。また、中学校職員による小学校での授業や入学説明会の実施など、小中学校間の連携を図る取組をしてきた。その結果、地域を巻き込んだ「あいさつ運動」を実施することができ、それぞれの学校の取組や児童生徒の活動の様子を理解する土台ができた。しかし児童生徒に対する具体的な指導は、まだそれぞれの学校に任されている部分が多く、9年間を見通した一貫性のある指導が十分ではなく、小中学校間の接続がなめらかであるとは言い難い。

そこで本研究では、小中一貫教育における9年間を見通した学習指導・生活指導や、地域に根ざした生徒指導のあり方をテーマに設定し研究を進めたい。また、地域との連携なしには生徒指導の充実はないと考えられ、生徒指導の三機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）を生かした実践や、地域連携に関わる共通理解・共通実践を行うことで、児童生徒自らが豊かな自己実現を図っていくために、自分自身が自らを指導していく能力、「自己指導能力」へと発展させていきたい。

III 研究の概要

1 研究の仮説

地域と連携した生徒指導の機能を生かして、日々の学習や生活の中で豊かな人間関係を築くための小中一貫した活動を行っていけば、自他のよさを見つけ（自己存在感）、認め合い（共感的な人間関係）、高め合う（自己決定）自己指導能力をもった児童生徒を育成できるであろう。

2 研究内容

主な研究内容	
生徒指導の機能を生かした学習指導の工夫	学習研究班
望ましい学習習慣の定着を図る取組	
基本的な生活習慣の育成及び向上	生活研究班
日常生活におけるコミュニケーション能力の育成	
小小連携・小中連携の取組	地域連携研究班
地域連携の取組	

児童・生徒自らが、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導能力の育成

具体的な目指す児童生徒像

自分の考えや思いをもち、互いに教え合い、励まし合いながら学習できる児童生徒

基本的な生活習慣を身に付け、友だちとして協調して生活できる児童生徒

地域や身近な人のよさに気づき、温かい人間関係を築くことができる児童生徒

◎ 望ましい学習習慣の定着を図る取組
◎ 生徒指導の機能を生かした学習指導の工夫
(学習研究班)

◎ 日常生活におけるコミュニケーション能力の育成
◎ 基本的な生活習慣の育成及び向上
(生活研究班)

◎ 地域連携の取組
◎ 小小連携・小中連携の取組
(地域連携研究班)

生徒指導の三機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした実践

小中合同研修会

9年間を見通した学習指導・生徒指導
地域に根ざした生徒指導

児童生徒の実態

- ① 自主的に取り組めない
- ② 基本的な生活習慣や規範意識が十分に身に付いていない
- ③ コミュニケーションがうまくとれない
- ④ 良好な人間関係を築くことが苦手